

2022年度 岡山大学大学院法務研究科
法学既修者C日程 試験問題

刑事法系（刑法，刑事訴訟法）

<解答上の注意>

1. 問題冊子は，表紙を含め3枚である。
2. 問題には，問題1と問題2がある。配点は，問題1が60点，問題2が40点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は，問題1用と問題2用の2枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙1枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し，また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお，整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後，問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は，黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 六法は貸与品なので，折り曲げや書込みをしないこと。なお，書込み・汚損等がある場合は申し出ること。
8. 試験終了後，指示があるまで席を立たないこと。
9. その他は，すべて監督者の指示に従うこと。

【問題 1】

次の各設問に答えなさい。解答用紙の冒頭に「問題 1」と記入すること（解答順序は問わないが、設問番号を記入すること。また、2問とも解答すること。）。

〔設問 1〕（配点 40 点）

甲は殺人の故意で、乙は傷害の故意で、それぞれ、一緒に A に向けて拳銃を撃つという点において意思を通じて、A に向けてその背後からそれぞれ拳銃の引き金を引いたところ、甲の撃った弾丸が A の心臓部に命中し、A は死亡した。乙の撃った弾丸は命中しなかった。

甲と乙の罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く）。

〔設問 2〕（配点 20 点）

航空機に搭乗するためには、航空券を係員に呈示して航空搭乗券の交付を受けなければならないところ、丙は、航空搭乗券交付の際に航空会社による厳格な本人確認が行われている中、真実は B を航空機に搭乗させて外国に不法入国させる意図であるにもかかわらず、その意図を隠して、あたかも丙自身が搭乗するように装い、航空会社の係員 C に対して丙の航空券と旅券（パスポート）を呈示し、航空搭乗券の交付を受けた。

丙に詐欺罪が成立するかどうかを論じなさい。

《問題1 以上》

《次頁に続く》

【問題 2】

次の【事例】を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。解答は、【問題 1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題 2」と記入すること。

【事例】

- 1 被疑者 X は、令和 3 年 7 月 21 日午後 1 時 10 分、自宅において、殺人の被疑事実で通常逮捕され、A 警察署に引致された。
- 2 同日午後 1 時 30 分頃、司法警察職員 P は、今まさに X に対し刑事訴訟法 203 条に基づく手続（以下「弁解録取手続」という。）を始めようとしていたところ、X の夫から依頼を受けた弁護士 S から、「X の夫から依頼を受けたので、X の弁護人になろうと考えている。これからすぐに接見をしたい。」との申し出を受けた。これに対して P は、S に対し、「今から弁解録取手続を行うところです。弁解録取手続は 15 分ほどで終わると思いますが、その後すぐに取調べを開始し、午後 9 時頃までかかる予定です。明日の朝なら時間をとることができますので、明日午前 10 時にお越しください。」と回答した。

S は、「そんなに待てない。弁解録取手続が終わったらすぐに、5 分でもいいから接見をしたい。それが無理でも、夕食の際には一時取調べを中断するはずなのだから、そのときに接見したい。」と抗議したが、P は取り合わなかった。

なお、この時点において、X はまだ、S を含めいかなる弁護士とも接見しておらず、X の弁護人選任届も提出されていなかった。

〔設問〕

司法警察職員 P による【事例】中「2」の措置の適法性について、具体的事実を摘示しつつ論じなさい。

《問題2 以上》

《刑事法系問題 以上》

【出題意図】

刑法

設問1は、殺人罪と傷害致死罪との共同正犯の成否が問題となる事案を素材として、刑法総論の体系的理解と事案処理能力を問うものである。

設問2は、詐欺罪の成否が問題となる事案を素材として、刑法各論の基本的な理解と事案処理能力を問うものである。

刑事訴訟法

本問は、初回接見に関わる接見指定の適法性について、判例の立場をも踏まえながら論じることができるかを問うものである。